

2020年中間トレーニング教材: BLS プロバイダーマニュアルの変更点

目的

これらの説明書は、「2020年アメリカ心臓協会ガイドラインの心肺蘇生法（CPR）と救急心血管ケア」の科学的根拠に基づいて、現在のBLSプロバイダーマニュアルを更新するのに役立ちます。

プロバイダーマニュアルの変更点

これらの資料を印刷して受講生に配布し、プロバイダーマニュアルの情報を更新する場所を提供してください。

1. 成人と小児の蘇生の連鎖

2020の変更点

- ・ 院内心停止の小児用Chains of Survivalが新たに追加され、第6のリンクである回復のためのリンクが追加された。
- ・ 院外Chains of Survival（成人と小児科）の両方にも6番目の鎖である回復が追加された。
 - ・ 心停止からの回復のプロセスは、最初の入院後も長く続く。回復期には、身体的、認知的、情緒的に最適な状態を確保し、社会的・役割的機能を回復させるための支援が必要である。このプロセスは最初の入院中に開始され、必要に応じて継続する必要がある。

適用箇所

- ・ パート1：一般概念
 - ・ セクション：蘇生の連鎖

2. 補助呼吸：成人

2020の変更点

- ・ 6秒ごとに1回（1分間に10回）に変更する。

適用箇所

- ・ パート7：換気の方法
 - ・ セクション：補助呼吸

3. 胸骨圧迫

2020の変更点

- ・ 邪魔になる衣服を素早くはだける。衣服を取り除くのが困難な場合は衣服の上から圧迫をおこなうことができる。
- ・ AEDが使えるようになったら、胸部を覆っている服をすべてはだける。AEDパッドを衣服の上から貼ってはいけない。

適用箇所

- ・ パート2：成人に対するBLS

- セクション：圧迫から始める質の高いCPRの始め方

4. 乳児用の胸骨圧迫

2020の変更点

- 救助者一人の場合：乳児の場合は指2本、親指2本、または片手を使用する。
 - 乳児の場合、単独救助者（一般の救助者でも医療従事者でも）は、乳頭間線のすぐ下を指2本または親指2本で胸骨を圧迫すべきである。
 - 乳児の場合、救助者がガイドラインで推奨されている深さ（胸部の直径の3分の1以上）に達することができない場合は、片手で押すのは合理的であろう。

適用箇所

- セクション
 - 乳児および小児に対する1人法BLS手順
 - 乳児および小児の胸部圧迫
 - 乳児および小児に対する2人法BLS手順

5. 小児の換気

2020の変更点

- 脈があり補助呼吸を受けている小児や、高度な気道をされた状態でCPRを受けている小児は、2～3秒ごとに1回の呼吸（1分間に20～30回の呼吸）を行う。

適用箇所

- パート7：換気の方法
 - セクション：高度な気道確保器具を使った心肺蘇生法と呼吸法

6. オピオイド

2020の変更点

- オピオイドの過剰摂取が疑われる患者で、はっきりとした脈はあるが正常な呼吸がない、あるいは呼吸が止まっている、あるいは喘いでいるだけの患者（つまり呼吸停止）には、補助呼吸に加えて、ナロキソンを与える。
- オピオイドの過剰摂取が疑われる患者で、脈がなく呼吸もない場合は、ナロキソンの投与を検討するが、心肺蘇生を遅らせてはならない。
- オピオイドの過剰摂取が疑われる患者で、確実に脈があり呼吸も正常である場合は、ナロキソンの投与を検討し、病院への搬送をおこなう。

適用箇所

- パート7：レスキュー呼吸法
 - セクション：重大概念、呼吸停止
- パート8：第8章 オピオイドに関連した生命を脅かす緊急事態

原文：https://ahainstructornetwork.americanheart.org/idc/groups/ahaecc-public/@wcm/@ecc/documents/downloadable/ucm_506741.pdf